

地域との連携による社会・経済の発展

人口減少をはじめとした様々な社会的課題が想定される将来を見据え、地域との連携強化を通じた魅力的な地域づくりと人流の増加に取り組むとともに、鉄道のご利用拡大とグループ事業の展開を一体的に行うことで沿線を活性化させ、社会・経済の発展に貢献していきます。

地域社会とのつながり

》地域活性化に向けた取り組み

沿線地域と連携した施策展開

営業施策の一環として、「さわやかウォーキング」、「デスティネーションキャンペーン(以下、DC)」等について、沿線地域との連携を深めながら取り組んでいます。

さわやかウォーキングは、年間を通じた土日・休日の鉄道利用促進を目的とし、沿線各地の魅力ある自然や歴史、文化等に触れることができる予約不要、参加費無料のウォーキングイベントです。1991年に開始して以降、約651万人(2026年3月末時点)の方にご参加いただいています。

DCは、春夏秋冬3か月ごとに対象地域を設定し、関係自治体とJRグループ旅客6社、旅行会社等が協力し、地域の

新たな観光素材をPRして鉄道による誘客を図る国内最大級の観光キャンペーンです。当社沿線で実施されるDCでは、地域の魅力を堪能できる観光列車の運行、地域の方々と連携した観光素材や特典を盛り込んだ旅行商品の発売等を行ってきました。また、他社沿線で実施される場合においても、当社の駅構内で観光素材の魅力を幅広く認知していただくための宣伝を行っており、様々な関係者と連携しながら日本各地の観光誘客に取り組んでいます。この他、地元名産品を車内でお楽しみいただける列車を運行するなど、沿線地域と連携しながら各種施策に取り組んでいます。

conomichi

当社エリアの沿線地域を中心に、地域内に住む方と地域外から来る方が、共に地域の資源や営みを自分ごととして育んでいく「共創人口」の創出を目的として、「conomichi(コノミチ)」事業を展開しています。これまで30以上の自治体や事業者等と連携し、地域の魅力を改めて見つめ直すフィールドワーク等を企画してきました。さらに2026年1月には、岐阜県中津川市と関係人口創出を目的とした連携協

定を締結するなど、地域活性化に向けた自治体との連携を加速しています。



conomichiが企画したフィールドワークの様子
(岐阜県中津川市)

FUN+TECH LABO

リニア中央新幹線の沿線のまちづくりにも参画しています。JR東日本・京王電鉄の橋本駅付近に建設中の中央新幹線神奈川県駅(仮称)周辺エリアは「さがみロボット産業特区」に指定されており、地域を挙げてイノベーション創出、エリアの価値向上に取り組んでいます。そこで、同駅周辺開発に合わせ、イノベーション創出促進を目的とした神奈川県、相模原市、JR東海での連携協力協定を2023年11月に締結し、2024年3月には当社がイノベーション創出促進拠点「FUN+TECH LABO(ファンタステックラボ)」を開業し

ました。ここでは、先端技術を有する企業・団体、大学など多様な関係者によるコミュニティを構築して共創を促すとともに、地域の方がイノベーションの一端を体感できるようなイベントや実証実験等を開催し、沿線地域の価値向上を目指しています。



相模原市で実施した子供向け仕事・技術体験イベントの様子

④ 地域との連携による社会・経済の発展

「リニア・鉄道館」～夢と思い出のミュージアム～

当社は、名古屋市による「モノづくり文化交流拠点構想」に参画し、2011年3月、名古屋市港区金城ふ頭に「リニア・鉄道館」をオープンしました。「リニア・鉄道館」では、東海道新幹線を中心に、在来線から超電導リニアまでの展示を通じて「高速鉄道技術の進歩」を紹介するとともに、鉄道が社会に与えた影響を、経済、文化及び生活などの切り口で学習する場を提供しています。全部で39両の実物車両を様々な角度からふれることで、その迫力を実感いただけるほか、模型やシミュレータの展示を通して、鉄道のしくみや歴史を体験しながら楽しく学ぶことができます。2025年度までの入館者数は累計で695万人でした。



リニア・鉄道館

》地域コミュニティと連携した防災・復旧活動

南海トラフ地震が発生し、列車が駅間に停止したことを想定し、お客様を迅速に誘導する訓練を実施しています。これまでの訓練では、沿線の高校生及び自治体の皆様にもご参加いただき、地域と連携して防災活動等に取り組んでいます。



津波避難誘導訓練

》お客様に信頼され、親しまれるサービスの実践

当社では、お客様に安全・安定輸送と高品質なサービスを提供し、お客様にご満足いただけることが、私たち自身の喜びにもつながるという考えのもと、地域社会及びお客様に信頼され、親しまれるサービスの実践に取り組んでいます。

新幹線では、「ブランドクオリティサービス運動」を展開し、お客様に安心して快適にご利用いただき、お客様の期待を超えるサービスを提供するため、駅・車内の接客サービスの向上に努めています。近年ではネット予約等が増加していますが、旅慣れたビジネス利用、訪日外国人のお客様を含めた旅行等でのご利用等、様々なお客様のご要望に的確にお応えできるよう、知識技能の向上に努めるとともに、“一歩先の価値”を自ら加え、サービスマインドの醸成に、当社グループ一体となって取り組んでいます。

在来線では、「リアルバリューサービス」を展開し、ホスピタリティマインドあふれるお客様サービスの実践を目指しています。お客様の気持ちを汲み取り、お客様の気持ちに寄り添い、精一杯のおもてなしをしようとする心持で人だからこそ生まれる付加価値をサービスとして提供し、お客様満足度の向上を目指しています。



接客ロールプレイの様子



接客の様子

》地域に根差した医療機関の設置（名古屋セントラル病院）

名古屋市中村区の名古屋セントラル病院は、地域の中核病院として年間4,400件以上の救急車受け入れのほか、年間1,800件以上の手術実施など、高度で良質な急性期医療を提供しています。開院以来、地域社会への貢献を使命に歩みを重ね、地域の皆様のご支援により、2026年7月に開院20周年を迎えました。今後も常に先進的で安全かつ質の高い医療の提供を通じて、地域社会に貢献していきます。



名古屋セントラル病院

》国際交流

当社は、視察受け入れや人材交流を通じた国際交流という形で、社会とのつながりを深めています。

視察受け入れでは、外国政府や海外鉄道事業者の関係者を、東海道新幹線を中心とする鉄道関連施設へ案内し、鉄道運営等に係る意見交換を行ってきました。現地現物の視察を通じ、各国の鉄道関係者に安全・安定輸送を支えるハード・ソフト両面の取組みに関する理解を深めてもらうことにつながっています。人材交流では、英国の現地铁道会社と相互に幹部社員を派遣し合う交換研修プログラムを運営し、鉄道の経営・技術に関して双方の社員が見聞を広め、研鑽を積む機会を設けています。また、米国の複数の大学と連携して、学生向けの夏期インターンシップ・プログラムを運営し、日本の鉄道や文化について深く学ぶ機会を提供しています。

国外では、ワシントンD.C.・ロンドン・シドニーの3都市に海外事務所を設置し、海外の鉄道や最新技術関連の情報収集、各国の有識者や鉄道関係者との情報交換、海外向け広報活動等、国際業務を幅広く展開しているほか、現地での国際交流にも力を入れています。例えば英国では、現地の学校にて超電導リニアの仕組みを解説する出張授業を実施し、学生た

ちが最先端の科学技術に触れる機会を提供しています。

英国との交換研修及び米国大学とのインターンシップは、いずれも開始から20回以上を数え、英国との交換研修におけるリユニオン（同窓会）には多くの修了生が参加しています。当社を訪れた方々との間に長年にわたり育まれた厚い信頼関係は、当社が海外で行う種々の活動を支えています。



英国鉄道会社との交換研修プログラムの様子

》文化芸術・生涯学習の振興（公益財団法人JR東海文化財団）

JR東海文化財団（旧・JR東海生涯学習財団）は、文化芸術や生涯学習の振興を通じた社会貢献を目的に、当社が1990年10月に設立した公益財団法人です。主な事業として、1991年10月に開館した「山口蓬春記念館」（神奈川県葉山町）では、新日本画の先駆者として日本画壇を牽引した山口蓬春画伯の作品等の展示や創作の場であるアトリエ、夫妻が愛でた四季折々の草花を回遊園路より堪能いただけます。

さらに、日本画等の様々な教室や史跡を巡る歴史移動教室の主催等、幅広い文化事業の活動を行っています。

山口蓬春《望郷 小下絵》
1953年

アトリエで制作中の山口蓬春

在来線 ～社会基盤の維持・発展～

当社は東海道新幹線とネットワークをなす東海地域の在来線運営を行うことで、人々の生活を支え、より広い意味では社会基盤としての使命を担っています。今後も変わりなく在来線網の運営にさらに磨きをかけることで、社会基盤の維持・発展に貢献していきます。

》 地域の社会基盤としての使命

名古屋・静岡を中心とした地域に根差した在来線運営を日本の大動脈輸送と一体的に行い、人々の生活を支えています。当社が運営する12線区の在来線は、営業キロでは約1,400kmと東海道新幹線の約2.5倍の距離に相当し、通勤・通学をはじめとする日常生活の移動手段、つまり、地域の社会基盤としての使命を果たしています。これまで新型車両の投入やそれに伴う速達化、フリークエンシーの向上等、サービス向上の取組みを進めてきました。

特急列車については、新幹線との接続の充実により、新幹線・在来線一体となったネットワークの整備や、季節やイベントによる需要の変動に合わせた増発・増結により弾力的な輸送力設定を行うことで利便性を高めています。また、2022年度からは、ハイブリッド方式を採用した新型特急車両HC85系の営業運転を開始しており、2023年度にかけて特急「ひだ」「南紀」のすべての列車への投入が完了しました。さらに、昨今のご利用が堅調に推移していることから、既に投入されている車両に加えて6両を2027年度に追加投入することを計画しております。加えて、特急「しなの」に現在使用している383系振子式車両の取替えを見据え、2026年度に新型特急車両385系量産先行車による走行試験を開始しました。385系では、国内最速でカーブを走行可能な383系の速達性を維持しつつ、新たに次世代振子制御技術を導入す

ることで、乗り心地をさらに向上させるとともに、安全性も向上させます。

また、普通列車についても、快速列車体系の整備、発車時刻の等間隔化、朝夕の通勤時間帯を中心とした列車の増発・増結等、ご利用いただきやすいダイヤの設定に努めています。さらに、2021年度から営業運転を開始していた通勤型電車315系については、2025年度に全車両の投入を完了しました。名古屋駅を発着する313系については、2024年度から車内防犯カメラの整備を進めています。加えて、快速「みえ」（名古屋～伊勢市・鳥羽間）及び高山本線・太多線の普通列車等で使用しているキハ75形気動車が更新期を迎えることから、2028年度から2029年度にかけてハイブリッド方式の新形式車両HC35形を新製し、順次投入する計画です。これら新車の投入等の施策により、安全性や安定性、快適性、利便性といったお客様サービスの向上、環境性能のさらなる向上等を実現します。



385系量産先行車

》 沿線地域と連携した営業施策の展開

当社の沿線は多くの観光資源に恵まれています。沿線観光地の地元の方々や旅行会社との連携を深めつつ、魅力ある観光資源について、駅や列車内、ホームページ等で宣伝を行うとともに、様々な営業施策を実施し、観光需要の喚起に努めています。

例えば、人里離れた山間にある駅舎や風光明媚な区間を走行する飯田線において、「飯田線秘境駅号」を観光需要が高まる時期に運行し、非日常感溢れる鉄道の旅を提案しています。さらに、当社の駅を基点として駅周辺の観光名所を散策できる予約不要、参加費無料の「さわやかウォーキング」を展開しています。また2025年度は、名松線開業90周年及び武豊線140周年キャンペーンにあたり、沿線自治体等と連携しながら記念企画を実施したほか、東急株式会社と、観光振興と地

域活性化を目的としたクルーズトレイン「THE ROYAL EXPRESS ～TOKAIDO・FUJI CRUISE TRAIN～」を運行しました。このほか、JR6社で行うデスティネーションキャンペーンを通じて、自治体や旅行会社等と連携し、魅力ある観光素材・商品の開発や観光列車の運行等を行い、地域の活性化に寄与するとともに、新幹線・在来線のより一層のご利用拡大に取り組んでいます。



小和田駅と飯田線秘境駅号

Message



常務執行役員
東海鉄道事業本部長

近藤 雅文

名古屋・静岡地区を中心とした在来線は、当社エリアのお客様に日々の移動手段としてご利用いただいております。新幹線・在来線一体で当社の輸送ネットワークを構成しています。在来線を取り巻く環境は、自然災害の激甚化に加え、将来にわたっての沿線人口ならびに労働人口の減少など様々な変化が想定されます。こうした中、安全を最優先に、新型車両の投入や、訪日外国人観光客も含めたご利用促進といった営業施策の推進による「収益の拡大」と、ICTや新しい技術の活用などによりコストを削減する「業務改革」に取り組んでいます。

今後も安全を最優先に、将来にわたってより良い輸送および快適なサービスを効率的に提供できる運営体制を構築し、沿線地域の皆様との連携をさらに強め、地域に必要とされる鉄道会社を目指し、在来線輸送サービスに磨きをかけてまいります。

グループ事業 ～沿線都市と移動の価値の向上～

》 JR東海グループの事業展開

当社グループでは、運輸、流通、不動産、その他の各事業を展開しています。運輸部門では、鉄道事業に加えバス事業を、流通部門では、百貨店の運営や駅構内等における物品・飲食物の販売を行っています。不動産部門では、駅及び高架下の開発や、駅ビル等の不動産賃貸等を行っています。その他の事業部門では、ホテル事業や旅行業、広告業等を展開しているほか、鉄道車両等の製造、各種鉄道設備の保守・検査・修繕等を行っています。

事業展開においては、沿線都市と移動の価値を高め、人々の豊かな暮らしを実現することを目指しています。鉄道利用者だけでなく、沿線居住者にも着目し、新たなライフ

》 顧客視点によるサービスの提供

当社グループの事業を展開するにあたって、消費者が自身の嗜好や意志により行動を選択する傾向が一層強まるなか、駅と

JR東海リテイリング・プラスの発足

当社の駅構内を中心に小売店舗を運営する東海キヨスクとジェイアール東海パッセンジャーズは、2023年10月に合併し、株式会社JR東海リテイリング・プラスとなりました。これは、仕入れや配送などの効率化を目的にしているだけでなく、これまで東海キヨスクは土産品を中心に、ジェイアール東海パッセンジャーズは弁当を中心に扱っているなか、顧客視点に立ち返ると、列車に乗車するまでの短い時間で土産品・弁当・飲料等をワンストップで購入できる環境が求めら

沿線地域での積極的なホテル展開

当社はこれまで、沿線の観光資源について、継続的なキャンペーンを地元や旅行会社とともに実施し、新幹線のご利用を促進してきました。一方で、当社グループのホテル事業展開は、駅など自社用地の活用が中心であり、訪れたお客様の宿泊需要にお応えできていなかった地域がありました。当社グループでは、お客様のこうした宿泊需要にお応えし、訪れた沿線地域でより豊かな時間をお過ごしいただくことを目指し、新規ホテル開発や、既存ホテルの競争力強化に取り組んでいます。

当社エリア最大の観光資源のひとつである京都においては、京都市営地下鉄烏丸線四条駅に隣接した交通利便性に優れた立地の物件を取得し、これを改装する形で2025年8月に「コートヤード・バイ・マリオット京都四条烏丸」を開業しました。また、2026年11月には、京都駅八条東口より徒歩3分の交通利便性が非常に優れた土地に、「コートヤード・バイ・マリオット京都駅」を開業予定です。これらのホテルにおいて、当社グループがこれまで培ってきた京都との結びつきを活かした旅行商品・サービス等を提供することで、さら

スタイルに適した街づくりや生活サービスを通じて沿線都市の価値を高めるとともに、移動を多様なライフスタイルの実現を支える重要な手段と捉え、乗車前後を含む一連の移動をより便利で快適なものにすることで、移動の価値も高めることに取り組んでいます。これを実現するための原動力として、グループ各社が顧客視点によるサービス提供をより重視するなどの変革に取り組むこと、自治体や事業者との連携、DXの推進の3つを重視しています。また、鉄道利用者、観光客、沿線居住者、自治体・事業者の4者との接点を増やし、潜在的なニーズや沿線地域の課題を把握し、新たな価値を提供することも大切にしています。

いう立地に依拠し、供給者の視点でサービスを提供するのではなく、顧客視点で商品やサービスを考えるよう努めています。

れており、駅構内の店舗の集約や大型化により、こうしたニーズに応えることを目的としています。



PLUSTA

なる観光需要の喚起とその獲得による一層の収益拡大に取り組んでいます。

奈良においては、2024年4月に、県が募集する「奈良県中小企業会館等宿泊事業者選定事業」で、当社グループが優先交渉権者に選定されました。本事業の計画地は、春日大社・東大寺・興福寺などの世界遺産を望み、奈良公園の玄関口に位置しており、奈良観光の拠点として非常に適しています。この計画地において、世界品質のラグジュアリーホテルを世界中で多数展開するハイアットと提携し、当社グループ初のラグジュアリーホテルとして「ホテル 寧 奈良」の2030年度開業を目指します。

このほか、日本有数の観光地として伝統的な町並や工芸品、郷土料理など



コートヤード・バイ・マリオット京都駅

④ 地域との連携による社会・経済の発展

様々な魅力があふれる高山において、これまで営業してきたホテルアソシア高山リゾートを2026年9月に「ヒルトン高山リゾート」としてリブランド開業し、また、東海道新幹線新横浜駅直上で営業してきたホテルアソシア新横浜についても2026年12月に「コートヤード・バイ・マリオット新横浜駅」としてリブランド開業予定です。



コートヤード・バイ・マリオット
京都四条烏丸 開業



ホテル 寧 奈良の外観イメージ

》 地域の自治体や事業者との連携

沿線の居住者や地域の課題を発見し、それを事業創出につなげ、沿線都市の価値を高めるために、地域の自治体や事業者と連携した様々な取組みを進めています。具体的な取組みとして、沿線の美味しい食べ物やこだわりの工芸品を産地直送でお届けするウェブサイト「いいもの探訪」を運営しています。地元で長年愛されてきた商品の紹介をはじめ、オリジナル商品の開発や「いいもの探訪」の名を冠した催事など展開の幅を広げ、生産者の方々と一体となって地域の魅力を発信しています。また、浜名湖における地域創生プロジェクトとして「浜名湖サイクリング」事業にも取り組んでいます。当社沿線にある浜名湖は、新たな「サイクリングの聖地」となりうる特長を有していることから、JR東海と地元観光協会等が共同でレンタサイクル拠点「弁天島サイクルゲート」を運営し、より多くの方に鉄道を使って浜名湖エリアを訪れていただくよう事業を展開しています。さらには、地域に根差した施設・企業・団体のPRを目的として、ホー

ムの駅名標付近に周辺施設の名称などを掲出する副駅名標広告の取組みや、地方の駅ビルにおいて地元のプロスポーツチーム等と連携し、イベントやグッズ販売などを企画することで、商業施設への集客を促すような取組みも行っており、様々な地域の自治体や事業者との連携強化を図っています。



いいもの探訪



浜名湖サイクリング(弁天島サイクルゲート)

》 DXの推進

変化し続ける顧客ニーズや事業環境に対応すると共に、顧客の範囲を鉄道利用者から沿線居住者に広げるために

DXにも積極的に取り組んでいます。

TOKAI STATION POINT

2023年10月に、JR東海グループ共通ポイントサービス「TOKAI STATION POINT」(以下、トスポ)を開始しました。当社エリアの商業施設やホーム上の売店などでポイントを貯めたり使ったりすることができるほか、2,000万人超の会員を抱える「EXサービス」で東海道新幹線に乗りこすることで貯まるEXポイントとの交換が可能で、出張や旅行でポイントを貯めたお客様が、旅ナカや旅アトで弁当やお土産などの買い物で使うこともできます。さらに、トスポを通じて得られるお客様のご利用データを分析することで、一人ひとりの嗜好やニーズを捉え、お客様が求める情報をタイムリーに提

供・提案し、新たな消費や移動を喚起することに取り組んでいます。加えて、日頃当社の在来線をご利用のお客様に向けては、TOICAカード番号を登録することで、クーポンやスタンプラリー等の機能を通じてイベントやキャンペーンに参加できるようにするなど、日常的な移動に付加価値を加え、様々な体験価値を提供していきます。



「TOKAI STATION POINT」
メインビジュアル

株式会社ADDIXの子会社化

2024年8月にはDX支援会社である株式会社ADDIXの全株式を取得し、子会社化しました。当社グループには駅・商業施設といったリアルなアセットや沿線の豊富な観光資源などがあり、今後もこの強みを活かして沿線都市と移動の価値を高めるためにはDXを更に推進する必要があります。一方、ADDIXはデジタル技術を用いた事業開発、マー

ケティング、販売促進などのDX支援を主な事業としており、取引先の課題解決に向けて、調査・企画からシステム開発・運用までの全フェーズに一貫して対応できる点に強みがあります。同社の持つデジタル人材や豊富な専門知識、事業創造ノウハウなどを取り込むことで、当社グループのDXを一段と推進していきます。

》 名古屋駅における事業展開

名古屋駅は、当社最大の駅であることからグループ事業の展開においても最も重要な拠点と位置付けています。現在は、2000年に開業したJRセントラルタワーズ(以下、「タワーズ」)と2017年に開業したJRゲートタワー(以下、「ゲートタワー」)を中心に様々な事業を展開

しています。中央新幹線開業後は、ターミナル駅としてその重要性は増していくことから、賑わいを生み出す取組みを続け、名古屋地区の活性化に寄与していきたいと考えています。

JRセントラルタワーズ

商業施設、ホテル、オフィス等で構成され、高さ245m、延床面積約417,000㎡を誇ります。

オフィスは、開業以来高い入居率で推移しており、入居状況はほぼ満床となっています。ジェイアール名古屋タカシマヤは、駅直上という好立地を活かして、開業以来売上を伸ばし続け、現在では、東海エリアで第1位、全国で

も上位クラスの売上高を誇っています。名古屋マリオットアソシアホテルは、駅直上の立地や高層階からの眺望、グレードの高い設備等によりご好評を得ています。



マリオット客室(スイート)

JRゲートタワー

タワーズに隣接し、商業施設、ホテル、オフィス等で構成された高さ約220m、延床面積約260,000㎡の高層複合ビルです。

オフィスは、将来の中央新幹線名古屋駅の直上に位置する好立地にあり、入居状況はほぼ満床となっています。タカシマヤゲートタワーモールは、約160のファッション・雑貨等のショップを集積させ、隣接する百貨店では捉えていないカテゴリー・価格帯のショップを取り揃え

ています。名古屋JRゲートタワーホテルは、客室の快適性と機能性を両立した宿泊主体型のホテルとして、名古屋マリオットアソシアホテルと合わせて幅広いお客様にご好評をいただいています。



ゲートタワーモール

駅構内での多様な事業展開

タワーズ・ゲートタワー以外でも、名古屋駅では様々な事業を展開しています。「名古屋うまいもん通り」では、遠方からのお客様が多い駅の特性もあり、「名古屋めし」を提供する飲食店を充実させています。また、全国的に話題となり、グッズ展開や他社とのコラボレーション企画も行っている、名古屋コーチンの卵を使ったひよこの形のスイーツ「ぴよりん」については、2026年6月に、名古屋駅中央コンコースに「ぴよりん」の世界観を体感できるイートインと物販エリアを併設した「ぴよりんvillage」を開業し、多くのお客様にご利用いただいています。さらに中央新幹線工事で運用を停止している在来線の線路上に飲食店を誘致するというこれま

でにない取組みや、タワーズガーデンやJRゲートタワーのイベントスペースを活用した、にっぽんご真ん中祭りの演舞披露や、学生によるステージイベント、オフィス入居者等による綱引き大会など、駅に新たな賑わいを生み出しています。



ぴよりん



世界の山ちゃん名古屋駅1番線店

Message



専務執行役員
事業推進本部長
谷津 剛也

JR東海のグループ事業では、変化するライフスタイルに応じた街づくりや生活サービスの提供を通じて沿線都市の価値を高めるとともに、鉄道をご利用されるお客様に対して、乗車の前後も含めてより便利で快適なサービスを提供することで移動の価値を高めることを大切にしています。

昨今の物価や金利の上昇、人手不足など、取り巻く厳しい経営環境は、グループ事業の推進においても例外ではなく、これらの変化に的確に対応しながら、事業を進めていく必要があります。そのためには改めて当社グループの強みやこれまで培った経験、実績などに目を向けた事業の展開を目指しています。特に東海道新幹線や在来線ネットワークなど鉄道事業との相乗効果をこれまで以上に追求することや、沿線地域等との連携を重視すること、当社が保有する資産を有効に活用して事業につなげることなど、当社グループにしかできない事業を進めていきたいと思っています。また、当社最大の拠点である名古屋駅エリアの活性化にも一層注力していきます。

グループ事業に携わる一人ひとりが挑戦と実践を通じて、沿線都市と移動の価値を高める取組みを推進してまいります。